



鳩吹山



山頂からのながめ

すごい point

- ・ 標高313mの鳩吹山は、見晴らしがばつぐんだよ。
- ・ 年間を通して自然豊かな鳩吹山は、市内外からの登山客でにぎわっているよ。

◎鳩吹山ってどんな山？

可児市の西のほしにある鳩吹山は、高さが313mある、市内で2番目に高い山です。

今は、みんなが「鳩吹山」と呼んでいますが、昔は「天神山」や「土田山」とも呼ばれていました。鳩吹山は、チャートという硬い石でできた山です。約2億年前は海の底にありましたが、ながい年月をかけて今の高さになりました。



鳩吹山のいいところ

◎頂上からのながめが絶景！

頂上からは、可児のまちや名勝木曽川、そして遠くの白山連峰や御嶽山、日本アルプスの山々を一望することができます。30分ほどで気軽に登ることができる山ですが、頂上からの景色が美しく、登山の達成感が得られることが魅力です。

◎登山ルートが充実している！

鳩吹山には、大脇、カタクリ、真禅寺、西山、石原の5か所の登山口があります。

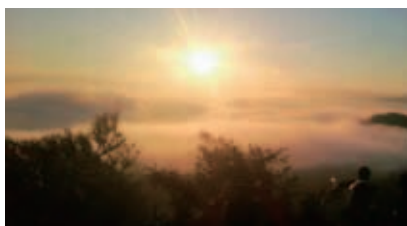
登山ルートによって距離や難易度が違うので、初心者からベテラン登山者まで多くの人を楽しめます。※大人の人と一緒に登りましょう。

◎自然が豊か！

年間を通して、自然豊かな鳩吹山ではたくさんの種類の植物を観察したり、バードウォッチングを楽しむこともできます。



鳩吹山山頂



初日の出



登山の様子



小淵ダム (久々利地区)



小淵ため池

すごい point

- ・日本で最初に完成した石積み式のダムだよ。

久々利には、小淵ダムという日本ではじめて完成したロックフィルダムがあります。ロックフィルダムとは、石を高く積み上げてつくったダムのことです。小淵ダムは、昭和24年（1949）から工事がはじまり、昭和27年（1952）に完成しました。

当時、このつくり方は日本初の取り組みだったため、海外からたくさんの資料を取りよせて設計されました。

◎ダムがつくられた理由

では、なぜこのダムがつくられたのでしょうか？

可児川とその支流は、昔から大雨が降るとあふれて、畑や田んぼを水ぼつさせていました。家が流されて人が亡くなることもありました。

大雨による災害を防止するため、また雨が降らない時期の田んぼの水を確保するために、昭和30年（1955）までに可児郡全体で8か所の防災ため池がつけられました。

その中の1つが小淵ため池で、小淵ダムはため池の水をせき止めるためにつくられたのです。

◎ダムの大きさとみどころ

完成したダムの高さは18.37mで、6階建て建物と同じくらいの高さです。ダムにためておける水の量は55万1925m³で、25m プール約1300杯分にもなります。

現在、小淵ダムの周辺は公園として遊歩道などが整備され、散策コースとしてたくさんの人に親しまれています。

小淵ダムの底には、明治時代に天然の氷をつくっていた「氷場」のあとが残っています。ダムの水が少なくなる冬の時期には、その姿を見ることができます。



ウェルカムガーデン



バラのアーチ

すごい point

- ・バラへの愛は世界一！世界にほこれるバラ園だよ。
- ・年間を通して、いろいろな花が見られるよ。

可児市瀬田にある「ぎふワールド・ローズガーデン」は、世界にほこるべき公園です。この公園は、平成7年（1995）に花の博覧会「花フェスタ '95ぎふ」の会場として、岐阜県が整備を行い、平成8年4月に「花フェスタ記念公園」としてオープンした県営の施設です。令和3年（2021）10月には「ぎふワールド・ローズガーデン」へと生まれ変わりました。

◎たくさんバラ

ぎふワールド・ローズガーデンは、1年を通じて季節の植物を観察することのできる「バラと花のテーマパーク」であり、園内にはたくさんの樹木や花が植えられています。その敷地面積はバンテリンドームナゴヤ17個分もあり、園内には県内最大規模の大型遊具や高さ45mの「花のタワー」もあります。

この公園には約6,000品種20,000株のバラが植えられています。この種類や株数の多さ、春から秋にかけてくり返し咲く「四季咲き」の品種や、野生のバラに近い品種のコレクションなど、多くの美しいバラを見ることができます。



園内の大型遊具



花のタワー

すごい point

- ・竹林に^{かこ}囲まれてリフレッシュ！
- ・荒れていた竹やぶが、^{ちいき}地域の人の力で昔と同じ景色をながめることができる^{すてき}素敵な遊歩道に、よみがえったんだ。

◎昔のようす

江戸時代、今渡には木曽川を渡る旅人でにぎわった渡し場がありました。

昭和2年（1927）に太田橋が完成すると、向こう岸との往来は^{おうらい}ずっと楽になりました。役目を終えた今渡の渡し場は使われなくなり、周辺には竹がしげるようになっていきました。

◎遊歩道の整備

平成19年（2007）、この竹やぶを整備して、市民の健康づくりやいこいの場所にしようと、「木曽川左岸遊歩道友の会」という地域のボランティア団体が立ち上がりました。たくさんの地域の人たちの協力と、地元企業^{おうえん}の応援もあり、木曽川渡し場遊歩道の整備が始まったのです。

おいしげっていた竹やぶは、ツタが木や竹にからみつки、竹が重なって倒れているなど、作業しにくく、整備するのに^{ひとくろ}一苦労だったそうです。

遊歩道の整備は現在も続いており、将来的には鳩吹山のふもとまでつながることを目指しているようです。

◎遊歩道を歩く

遊歩道を歩くと、さまざまな動物や植物に出会えたり、木曽川のすばらしい景色を見ることができ^{けしき}ます。遊歩道のコース内にある大昔の木が立ったまま化石になった「化石林」や、女の人の^{ゆうれい}幽霊が出たといわれる「夜泣き岩」は見学スポットとなっています。

竹林に^{かこ}囲まれた遊歩道は、歩くととても気持ちが良いので、ウォーキングコースとしてたくさんの人に親しまれています。



木曽川渡し場遊歩道



今渡の渡し場跡



ウォーキングの様子